

優しさという選択

(原文は英語)

マヤ・アマラバティ・シャルカル (14 歳)

インド・コダイカナル市

コダイカナル・インターナショナル・スクール

優しさという言葉を聞くと、人によってさまざまな光景が思い浮かびます。私の場合は、子どものころの嫌な出来事です。私の友だちの女の子が同じクラスの男の子からメガネを取り上げて壁にたたきつけ、いじめていた光景を覚えています。女の子は男の子を壁に押しつけると、どこかに行ってしまいました。私はその時、下を向いていました。怖くて男の子の目を見ることができなかったからです。怖いと思う以上に恥ずかしいと思いました。その女の子を自分の友だちと呼んでいることが恥ずかしかったのです。男の子はメガネを拾い上げると教室に戻ろうとしました。

「だいじょうぶ？」と私は男の子に同情して尋ねました。

「うん、だいじょうぶ」と男の子は答えました。そして「心配しないで。あの子に何されたって、ぜんぜん気にしていないから」と言い、行ってしまいました。「私には気になる」と伝えたかったのに。

私はその男の子に、彼はひとりぼっちではないと知ってほしかったのです。彼は転校してきてまだ 1 か月しかたっていないのに、つらい思いをしていました。

その後、私は女の子にいじめた理由を尋ねました。女の子は「たいしたことないじゃない」と言わんばかりに肩をすくめました。一つの小さな優しさの行動がとても大きな意味をもつと同じように、一つの小さな乱暴な行動や意地悪な行動も、その後にずっと影響する場合があります。女の子はそのことをわかっていなかったのだと私は思います。こうして私は「友だち」と呼んでいた彼女から少しずつ離れていき、あの男の子は、どんな時でも信頼のできる親友の一人になりました。

この時の出来事で感じたことや、その後に何度もいじめの光景を目にしたことで、私はいろいろと考えるようになり、たくさんの思いが浮かびました。社会をより良い場所にするために、私たちには何ができるのか。私は多くの人考えるように、優しさは「さざ波」のようなものであることに気づきました。一つの小さな行動がより多くの優しさを生み、やがて人々のあいだに笑顔と笑いと思いがあふれるようになります。私は水に投げ込まれる石になって、優しさのさざ波を起こしたいのです。

いじめも同じように、さざ波となって次のいじめ体験を生み、人々に影響を与えていきます。そのような波を食い止めるには、私がもっと強くて勢いのある優しさの波を社会に巻き起こしていく必要があります。

私は長い間、自分自身に問いかけてきました。人はどうして友情や優しさを育むのではなく、誰かを

嫌ったり軽蔑したりする気持ちを強くするのか。私たちは皆、なりたい自分を自分で選ぶことができます。誰かをいじめて、その人に痛みを与えることを選ぶ人もいれば、誰かが苦しんでいるのを見て見ぬふりをすることを選ぶ人もいます。別の選択もあります。いじめをやめさせて、いじめの悪循環を断ち切るという選択です。たとえ困難で自分にとって都合が悪くても、いじめの「闇の部分」に引き込まれることなく立ち向かい、誰かが今よりも明るく生きられるようにする選択です。努力して誰かのために何かをするということは、それ自体とても意義のあることです。私にとって、その決断は難しいことではありませんでした。時には無力な諦観者に終わることもあります。誰かを助ける人間でいることを私は選びました。

正直に言うと、人に優しくするには、たいていとてもエネルギーを要します。もし私が世界中の人たちに反抗されたら、私も態度が意地悪になって、誰にでも優しくすることに何の意味があるのかと疑問に思うでしょう。誰かが今よりも明るく生きられるようにするなどということには関心をもたなくなり、自分の問題にしか目を向けなくなると思います。私が気づいたことは、人に優しくしてもそれが報われるわけではないということです。そして、報われることを期待してはいけないということにも気づきました。人への優しさは、純粹に心からの優しさであるべきで、それが報われるわけではないことを知っておかなければいけません。本当の喜びとは、誰かを助けたことで生まれる温かな気持ちなのです。

それでも、優しくするには強い意志が必要です。私の場合、ストレスを感じるとだんだんと疲れてきて機嫌が悪くなり、誰かに優しくするのが面倒になってきます。だからこそ、優しさの連鎖を起こしてイライラの悪循環を断ち切るには、責任意識をもつことが求められるのです。優しさを通じて周囲に良い影響を与えるには、同じ考え方の人たちとグループを作り、思いやりのある行いを意識的に、できる限り実践していかなければなりません。私たちは互いに助け合い、優しさを実践する努力をしながら孤独感が生まれるのを防ぎ、優しくした相手から冷たい対応をされた時にはその痛みを取り去り、いつも優しさを忘れないようにするのです。大切なのは皆でこれを貫き通すことであり、意識的に暗い洞くつに差し込む一筋の光となって、暗闇を明るく照らす道を選ぶのです。その時はじめて、私たちの行動の成果が表れるのだと思います。